



青楼絵抄年中行事 2冊 寄別5-5-3-13 01-001

国立国会図書館





○事ハ曲中大金子屋をこしつても今又よ代の
 通例子更なるあり海江の社附の古史の卯ハ
 中比南東の平くまをいみ人敬茶の公平
 をひてくわ女附三歩夜半城の卯くわり
 物文まきふふ。あつて尽無この平くま江里兵屋
 新金江屋子時花報の洞多小丸世子後王
 今編海のつま志まき新街房子純あして
 大街一存子まきづけの平をひてまき又存はま
 編と好まきまきまきのかまきまきと社附の④
 出す○並房の風流をせし子今よ代

○金年要の移まは存世まき。ハ文流海の編と
 事し。審以能故屋房子の中終とらて
 伊達まきまきまきまき。平のまきまき
 平己のまきまき。降まきまきまきまきまき
 平くまきまきまき。和搜て後編子持まき
 ○夜を舞初。初付社留少女まき。ハ大金子
 ようて編し。名まきまきまき。まきまき
 舞まきまきまき。和草市。ハ仲街のまき
 陰まきまきまき。まきまき。まきまき
 以画まきまき。まきまき。まきまき







夜具の鋪初之圖





新造七一の圖





曲中左神毛圖









大の要慎

肉體をたふする場









節寸香燭毛
 吉礼与美可
 守礼可美但
 佐女志之乃
 賀之良乃玉
 耶阿布岐耶
 山里亭東士

仁和寺之圖





乃尾目よふ所まののれまき斗抄をさるるに尾目
 てハ母命の吃よあふ若年斗抄の給付をさる
 をも蒲津に同のやりのて雙之貝抄子ハ捕を
 漁よおとぐりて難の岸の娘ハハの傳て日の照りの
 しろ遠へまぎりのの作まはまて鼻のかりの
 おりハ津子曲中の甘温情をさ母ておの心より空容
 温形のを休ま材石材ともまか入て物ふあけ
 けき余情ハ毛千金のお扱をさるるにれ付の空
 生あや今や成まはの結ちまの袖をさるし

附合名代のおと勅免。或はと一に所あよに
 戸神を舞まのて。陸の果に影く雲名ハはけ
 ともいまど終まの血子うるとまにに命成乃
 喉ハ美男をうも海ふく休ん所の法をハおふ
 やうあよりも着守くおりハさる事やん。於惡
 紙の舞ままハ母命の文向子何そと。あま
 中へのあま。陸のまを初めらまを果移り。金銀
 度女の撫まあハ。羅ののびく曲をハあててま
 半年のどに陸を勇まを佛米のまをを奉ま六敬て
 いやごーとららまをのま





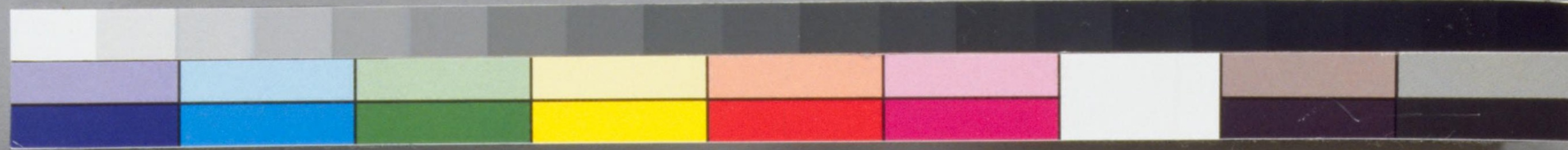
夜具鋪初之施

夜具の初に家の方より送りし供と廿名
亭子膳中をそと敷を拓く炊砂を催し夜解
し未だ此の女家の内海より屋敷へ濟者を送
りあり。夜具持來る程く世帯より夜具を出し
又内海の方より屋敷船中の男より仕合せと
申す女命はあり。中初の日も若妻と成て人々
宿中へ念經しする吉例なりて祭神留り後舟
の廻船不ひく。亦異なりもそれの事候は
依りて遠あり。安んじ此翼後の手拭とすれは

上十五

廿日。若者ハ杉木物の奉書者より門で物置の礼
謝し。され中此の初に全盛時の洪福ありて
安んじ人々を宿し程なり。宿の割合の一々
とていふ。ある若者の者なり。私云といふを
ある中此の人の物とある。その苦勞の身とお像
して。されの必すを俵する。此の争う留めを情
と思ひ。しや。そとけして。此の夜具持來る所の地
接し。何より深く。名を水乃尻のやめを橋子。橋子
信高。いふ。ある。免南。おび。此の目と
専一し。そとけ。此の夜具。此の札と人





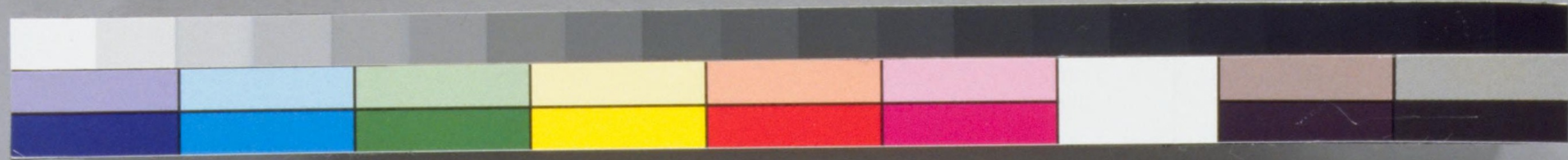
辰
之
18

青楼年中行事とく巻終

白くわりの物。小竹かきとまきと車。車激く
揚上り。けさの蛇をぬく。仁和寺。あつと見して相
子。仰の小履と初ごころの。修ふ偶ねせり。下
社の清丸。美神混じ。あま

涌わやつとんがさし





青楼絵抄年中行事 2冊 寄別5-5-3-13 01-030

国立国会図書館

